

高砂市民病院経営強化プラン (令和6年度～令和9年度)

令和6年度における数値目標と実績の比較
検証結果について(報告)

1. 報告の趣旨

本報告は、令和6年度における高砂市民病院の経営指標について、経営強化プランに基づき設定した数値目標と実績値の比較検証を行い、その達成状況及び課題を明らかにするとともに、今後の経営改善に向けた基本的な方向性を整理するものである。

2. 達成状況の総括

令和6年度においては、収支に係る主要指標をはじめ、多くの項目において目標値を下回る結果となった。特に、総収支比率、経常収支比率、医業収支比率及び修正医業収支比率のいずれもが目標未達となり、単年度資金不足額についても見込みを上回る結果となるなど、経営状況は一層厳しさを増している。

また、入院及び外来患者数の減少並びに病床利用率の低下が認められ、これらが医業収益の減少を招き、結果として費用比率の上昇を引き起こすなど、経営全体にわたり負の影響が波及している状況にある。

3. 主な項目別の検証結果

(1) 収支の状況

総収支比率は98.9%(目標)に対し95.6%(実績)、経常収支比率は86.0%に対し81.0%、医業収支比率は81.7%に対し78.1%、修正医業収支比率は78.1%に対し74.4%と、いずれも目標値を下回った。

また、単年度資金不足額については664百万円の見込みに対し683百万円となり、資金収支においても悪化が認められる。

これらの結果から、収益の確保が計画どおりに進まず、費用構造の見直しが十分に機能していない状況が明らかとなった。

(2)費用構造の状況

材料費対医業収益比率は 13.6%(目標)に対し 15.5%、薬品費は 6.7%に対し 8.6%と上昇した。委託費は概ね横ばいで推移したものの、職員給与費対医業収益比率は 75.1%に対し 79.1%と増加している。

これらは、医業収益の減少に伴う相対的な比率上昇に加え、薬品費の増加等が影響したものであり、費用構造の弾力性に課題があるものと認められる。

(3)患者数及び病床稼働の状況

1日当たり入院患者数は 130.0 人(目標)に対し 121.3 人、外来患者数は 501.7 人に対し 486.9 人と、いずれも減少した。

また、許可病床利用率は 65.3%に対し 61.0%、稼働病床利用率は 80.7%に対し 75.4%と低下しており、医師不足が主な要因となっている。

(4)医療提供体制の状況

医師数は 28.6 人(目標)に対し 29.4 人、常勤医師数は 20 人に対し 21 人と一定の確保が図られているものの、内科医師数の減少等の影響により、入院・外来患者数及び救急受入件数の減少が生じている。

このことから、診療体制の安定的な確保には依然として課題がある。

(5)地域連携及び救急医療の状況

紹介率は 50.0%(目標)に対し 44.9%、逆紹介率は 70.0%に対し 62.4%といずれも低下した。

また、救急搬送患者数は 1,008 人に対し 685 人と大幅に減少しており、地域医療機関との連携機能及び救急医療提供体制においても課題が認められる。

4. 今後の対応の方向性

今後の経営改善に当たっては、次の事項を重点的に取り組む必要がある。

まず、医師確保の強化、とりわけ内科医師の確保を最優先課題とし、診療体制の安定化を図る必要がある。

次に、救急受入体制の充実及び紹介・逆紹介の促進等により、患者数の回復を図る必要がある。

また、薬品費をはじめとする各種費用の適正化を進め、収益に見合った費用構造の構築を図る必要がある。

さらに、医師数や病床稼働状況等の実態を踏まえた現実的な目標設定を行い、計画の実効性を高める必要がある。

各年度数値目標一覧(高砂市民病院将来構想の目標(4億円程度)を達成する条件)

目標区分	目標項目	R4全国 公立平均 100~200床	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (目標)	R6 (実績)	R7 (目標)	データ分析検証	
経営指標に係る数値目標	収支改善に係るもの	総収支比率(%)	—	104.3	98.0	98.9	95.6	99.7	入院外来収益の減
		経常収支比率(%)	105.7	104.3	91.2	86.0	81.0	89.5	—
		医業収支比率(%)	80.6	84.2	81.8	81.7	78.1	85.3	—
		修正医業収支比率(%)	—	80.5	77.9	78.1	74.4	81.6	—
		単年度資金不足額 (百万円)	—	0	325	664	683	522	—
	経費削減に係るもの	材料費 対医業収益比率(%)	17.2	13.3	14.2	13.6	15.5	13.6	薬品費の増
		薬品費 対医業収益比率(%)	7.9	6.7	7	6.7	8.6	6.7	整形外科及び眼科に係る薬品費の増
		委託費 対医業収益比率(%)	—	13.4	13.9	14.5	14.5	14.0	—
		職員給与費 対医業収益比率(%)	66.7	72.7	75.5	75.1	79.1	71.3	入院外来収益の減
		100床当たり職員数(人)	134.7	132.6	159.6	162.1	155.9	159.1	職員数の減
	収入確保に係るもの	1日当たり入院患者数(人)	97.0	129.3	121.1	130.0	121.3	135.0	内科医師数の減による入院患者数の減
		1日当たり外来患者数(人)	256.0	491.0	490.4	501.7	486.9	510.7	内科医師数の減による外来患者数の減
		入院患者1人1日当たり 診療収入(円)	33,621	45,588	46,285	46,733	46,312	46,472	—
		外来患者1人1日当たり 診療収入(円)	10,078	12,688	11,521	12,012	11,858	12,132	—
		医師1人1日当たり 入院患者数(人)	5.7	3.9	3.8	4.5	4.1	4.8	内科医師数の減による入院患者数の減
		医師1人1日当たり 外来患者数(人)	10.4	10.0	15.4	11.5	16.6	12.3	—
		看護師1人1日当たり 入院患者数(人)	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	—
		看護師1人1日当たり 外来患者数(人)	1.5	1.6	2.4	1.5	2.3	1.6	—
		許可病床利用率(%)	63.9	64.9	60.9	65.3	61.0	67.8	内科医師数の減による入院患者数の減
		稼働病床利用率(%)	—	66.9	64.5	80.7	75.4	83.8	内科医師数の減による入院患者数の減
	経営の安定性に係るもの	医師数(人)	—	32.6	31.9	28.6	29.4	27.6	—
		常勤医師数(人)	—	23	21	20	21	21	—
		現金保有残高(百万円)	—	835	1,243	835	1,559	835	—
		企業債残高(百万円)	—	420	542	1,041	965	907	電子カルテ、CT装置、RO水処理設備の企業債の発行
	修正医業収支比率に係る目標 及び 経常収支比率	紹介率(%)	—	35.1	43.1	50.0	44.9	51.0	—
		逆紹介率(%)	—	43.4	62.0	70.0	62.4	71.0	—
		急性期病院からの転院受入 (件)	—	187	183	312	162	324	内科医師数の減
		救急搬送患者数(人)	—	770	854	1,008	685	1,081	内科医師数の減による受け入れ件数の減
手術件数(件)		—	1,792	1,790	1,828	1,928	1,828	—	
開業医からの紹介患者の検査 即日対応(件)		—	—	68	240	244	240	—	
訪問看護(件)		—	3,841	3,948	3,921	4,078	3,921	—	
人間ドック(件)		—	644	773	970	806	970	1泊2日の利用者が少なかったため	
健診センター(件)		—	7,138	8,195	9,443	9,109	9,443	特定健診の開始時期が変更になったため	